

シラバス（申請用）

区分	栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連
担当指導者	田中 良一、橋本 壮志、前田 倫厚、金光 史恵、橋本 信也
時間	8
学習概要	<p>「栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連」で共通して学ぶべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルに関する局所解剖 2. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要疾患の病態生理 3. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの目的 5. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの適応と禁忌 6. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルに伴うリスク（有害事象とその対策等） <p>特定行為「末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入」で学ぶべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入の適応と禁忌 2. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク（有害事象とその対策等） 3. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入の方法と手技
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連の特定行為を安全かつ確実に実践するための基礎的知識・技術を身につける ② 医師の指示の下、手順書により、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、「末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入」の実施の判断、実施、報告の一連の流れを適切に行えるようになる ③ 手順書の案を作成し、自身の臨床経験や環境、患者に応じて再評価・最適化できる能力を養う
研修方法/ 評価方法	<p>講義（放送授業・面接授業）：e-ラーニングの受講/確認テスト、添削指導</p> <p>講義（手技動画）（放送授業・面接授業）：手技動画の視聴/手技練習の観察評価</p> <p>OSCE（実技授業）：シミュレーターを用いた実技試験の実施/評価表（DOPS）を用いた観察評価</p> <p>実習（面接授業）：①手順書、②患者に対する実技</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 手順書案の作成、特定行為実施後の再評価/医師による評価 ② 特定行為の適応・病状の範囲・行為内容の判断・実施・報告、レポート提出/評価表（DOPS）を用いた観察評価、レポートへのフィードバック <p>※経験すべき症例数は、行為の難度に応じて5症例とする</p> <p>試験（筆記試験）：修了試験の実施（教室に集まりPC端末もしくは試験用紙を用いて行う）</p>
備考	<p>研修時間には、講義、評価を含みます</p> <p>講義時間には、動画再生時間、動画中の課題の時間、確認テスト（テスト受講、採点、解答確認）の時間を含みます。自学の時間は含まれません</p> <p>患者に対する実技を行う実習の前にシミュレーションによる学習（手技練習）および実技試験（OSCE）を行います</p>

学習内容	タイトル	講義	実習	OSCE	評価	合計	学習概要
「栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連」で共通して学ぶべき事項							
講義	PICCの総論と局所解剖	0.5				2.5	1
	PICCを要する主要疾患の病態生理	0.5					2
	PICCを要する主要疾患のフィジカルアセスメント	0.5					3
	PICCの目的、適応、禁忌	0.5					4, 5
	PICCに伴うリスク（有害事象とその対策等）	0.5					6
試験	栄養に係るカテーテル管理（PICC管理）関連（共通） 修了試験				0.5	0.5	
		2.5	0	0	0.5	3	

特定行為「末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入」で学ぶべき事項							
講義	PICCの挿入の適応と禁忌	0.75				3.5	1
	PICCの挿入に伴うリスク	0.5					2
	PICCの挿入の方法と手技	0.75					3
	PICCの挿入のトラブル対応	0.5					2, 3
	PICCの挿入に関する患者説明、医師への報告	0.5					2, 3
	PICCの挿入の前後の管理、在宅での管理	0.5					1~3
講義 (手技動画)	PICCの挿入の方法と手技	1	*			1	3
OSCE	PICCの挿入			*	*	0	1~3
実習	PICCの挿入（手順書の作成）		+			0	1~3
	PICCの挿入（患者に対する実技）		5症例		+		1~3
	PICCの挿入（手順書の見直し）		+				1~3
試験	PICCの挿入 修了試験				0.5	0.5	
		4.5	0	0	0.5	5	

- *：手技動画を視聴後、シミュレーターなどを利用して手技練習を行う
- ※：患者に対する実技の前にOSCE（10～15分程度の評価を含む）を行う
- †：臨床経験や施設に応じて手順書案の作成、見直しを行う
- ‡：患者に対する実技では、1症例ごとに10～15分程度の観察評価を行う